《海外研究室事情 (43)》

Gravity and Cosmology group, Science Education Department, Ewha Womans University, Korea

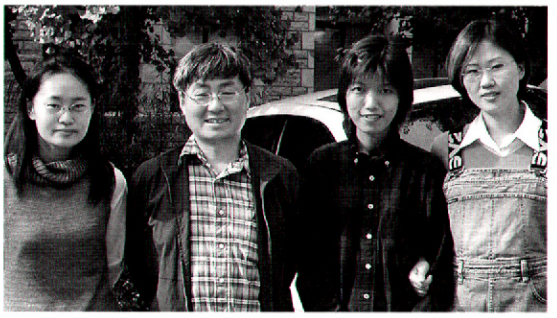
梨花女子大学校（韓国）

http://www.ewha.ac.kr

私は2002年5月から9月までの間，韓国の梨花女子大学校でポスドク研究員をしていた．梨大は1886年に創設された韓国きってのお嬢様大学で，世界で唯一工学部のある女子大学でもある．歴代の学長はすべて女性ばかりで，学部生は在学中に結婚してはいけないという不思議な校則があった．ソウル市の市街地に位置するキャンパス内には，歴史を感じさせる石れんが造りの建物が多数あったが，それらに混じってケーキ屋，カフェなどがあちこちにあるのはいかにも女子大らしい．また学内に銀行や郵便局があり，留学生や海外からの研究者も多く訪れるのか，英語や日本語に対応したATMもいたるところに設置されていたのは便利だった．私は滞在中に目の病気になってしまったが，学内の保健センターに日本語を話せる医者がいたのでとても助かった．

私は科学教育学部にある重力理論グループに所属していた．ここの学部生は下級生の間は共通の教養的な科目を学び，上級生になってから教育学かあるいは物理や化学などの自然科学のコースを選択する．最近は物理の人気がなく，研究室の院生もみんな教育学を専攻していた．そういうわけで院生とは世間話をしたりミーティング（合コン）に行ったりはしたが，物理についての会話をすることは殆どなかったのは残念だった．研究グループのボスはSung-Won Kim教授で，ワームホール物理と物理教育学を専門分野としていた．私は主にもうひとりの常勤スタッフであるSean Hayward助手とブラックホールとワームホールの二重性仮説についての共同研究を行い，およそ週一回のペースで研究の進展状況を報告していた．私の滞在中での常勤スタッフはこの2名で，ポスドクは私ひとり，非常勤講師が数名の小さなグループだった．教科書を読むような定期的なゼミは特になく，私は個人的に研究指導を受けていた．それからビジターによるセミナーが不定期にあった．私にとって滞在期間が短くワームホールに関する研究もはじめてだったが，集中して研究したおかげで結果を論文にまとめることができ，自分の研究の幅も広がったので，ポスドクで行ってきた甲斐はあったと思う．

韓国の大学での研究費は，科研費のような競争的資金から出ているようだ．私の給料はKim教授の研究費と梨大の基金とで折半してまかなわれていた．次の研究費を当てるためにも，私に論文を早く書くようにとKim教授からはかなりのプレッシャーをかけられた．韓国では欧米の名門大学に留学してPh. Dをとるのが奨励されているらしく，国内には韓国人の若い研究者はあまりいない．ポスドクについては教授の研究費などでわりと自由に雇えるようで，私のようによそからさすらってきた外国人ポスドクにときどき会った．韓国人のポスドクは機会があればやはり外国に出て行くことが多いようだ．理論物理のなかでは素粒子，ストリングは盛んなようだが，一般相対論を専門にしている人は非常に少なく，Kim教授は韓国でも相対論の研究をもっと盛り上げたいと言っていた．また韓国のアカデミックポストについては，どのような募集の形式が通常なされているかわからなかったが，就くのは難しい，とまわりの人たちは言って



キャンパス内にて．
右から二人目が私，三人目が Kim 教授．

いた．いずれにしても私に関係ないような話とか込み入った話は韓国語でなされることが多く，詳しい内部事情まではあまりよくわからないまま，まだ「お客さん」のうちに帰国してしまった．

韓国の高校では第二外国語を取るようになっていて日本語も選択できる．近年は日本ブームで日本語は人気科目となり，日本語教師が足りないほどになっていた．だからというわけでもないが私も一度，梨大付属高校の日本語の授業に借り出され，生徒達から日本についての質問に受け答えした．若い人達にとって興味ある日本文化とは主に映画や漫画，アニメである．でも日本語の歌は禁止されていて，この辺りに少し複雑で妙な感じがした．

韓国の食べ物は基本的に私の口にとても合った．食材そのものは日本でも馴染みあるものが多いが，味付けはかなり異なり新しい味覚にたくさん出会えた．キムチをはじめ全般的に唐辛子をたくさん使った料理が多く，テーブル上は真っ赤なのだが，韓国産の唐辛子はじつは甘みがあり，辛い，と一言では言い切れない．また韓国の食事では金属製の箸とスプーンを使い，食器も金属製のものが多い．これは昔，王様が毒見のために銀製の箸と食器を使ったのが始まりといわれる．また韓国の酒は大きく分けて３種類ある．まず焼酎であるが，お湯や氷で割ったりせずストレートで飲む．次に原料に朝鮮人参などの韓薬を使った薬酒があり，個人的にはこれがいちばんおいしい．さらにどぶろくがあり，これもおいしい．

日本との大きな相違点のひとつに徴兵制がある．韓国では二十歳すぎの男性は全員，２年ほどの兵役につかねばならない義務がある．そのため同じ学年の大学院生でも，男子のほうが女子より年齢が高いことが多かった．彼ら曰く「２年も射撃訓練のようなことばかりしていると，今まで勉強してきたことなど全部忘れてしまう．この間のブランクは研究者を志すものとしてはとても痛い」．一方，女性に兵役の義務はないが，結婚し遅れないようにというプレッシャーを受ける．早く結婚して子供を産み家事育児をこなすのが大切，という良妻賢母を理想とする儒教的思想が根強い．しかしこの考えは近年の女性の社会進出によって変わりつつもある．したがって女性の生き方についての考え方は個人や世代間でギャップがあり，日本での状況と少し似ている．また学生たちが「小さいころはいつか白馬に乗った王子様が迎えに来てくれると信じていたけど，大人になって現実は違うと分かった」と話すのを聞いて，日本人の感覚に極めて近いと思った．

私の滞在中にはちょうどワールドカップが開催された．国全体で学園祭をしているような盛り上がりで，国民みんながとり憑かれていた．梨大はキリスト教系の大学で構内に大きな教会があり，その礼拝堂に設置された巨大スクリーンで私も学生たちと試合を観戦した．特にアンジョンファン選手の人気は絶大で，彼のゴールがきまって指輪にキスする場面では，絶叫したり失神しそうな女の子が続出した．しかしあるとき韓国人の男の子とサッカーの話をしていたら，「実は女の子と会話するときは，兵役での体験話とサッカーの話をしてはいけないんだ」と言われた．韓国でのサッカーは一昔前の日本でいうところの，いわゆるお父さんのプロレス，のような位置にあったようだ．「でもワールドカップでは女性もみんな盛り上がっていたけど」と私が聞くと，「それはワールドカップだから」という答えが返ってきた．私はこのとき韓国の国民性を垣間見た気がした．

小山博子